

と御訓誠成されて居りますが、四條氏も常に此の御聖訓を色讀されて居たから、知行歿收せられとも如何なる迫害に遭遇成されても確固として動じ玉はず、竜口法難の如きは共に聖祖に殉ずるの覺悟をせられて末代信者の龜鑑と成り玉ふたのである、而れは我等も徒らに醉生夢死して渴井の狐に劣る如き行動があつては成らぬ、而して何處迄も献身的の活動を續けていつたならば、それが難て意義ある死に對するの用意である (終)

## 如何にして進むべきか

福 島 瑞 岳

明治天皇の御歌を拜誦すると其中に『黒金の的射し人もあるものを貫き通せ大和心を』といひ『ことかくて治まる世にも民の爲思ふ心はやすむ時あり』と仰せになつてあります私は此の御作を拜誦する毎に肺肝に泌みこむのです有史以來殆んど比類ない英主にましまして又比類のない鴻業を立てさせられた我が日本國のみにかと申すと、さうで

はない『四方の海みなはらからと思ふ世になど浪風の立ちさわぐらん』と仰せにあつて世界萬國の事までも御心配なされてある事は私が今新しく申すまでもない斯の如く吾々をして志操を堅固にすべきことを示されてある吾々國民たる者は深く思ひをこゝに致さねばからぬ實に今日の如く世界各國から對立して各方面に烈しい競争が續いて居るではないか今此の時に當つて老幼を問はず男女を論せず苟くも我國民たる者はしつかりと覺悟の臍を固めて世の中に立ち進まなくてはならぬ若し互の心に少しでも緩みかあつたならば國家の前途が氣遣はしいのみならず吾等も決して安穩には居られぬ小い成功に安心して驕慢の心を生ずる者と小い失敗に力を奮はれて絶望する様な者は『生きて不生産的動物たらんより寧ろ死して社會の經濟を妨げざるに若す』と叱して然るべきではいか此に於てどうしても必要を物があるそれはなんであらう即ち精進と忍耐である世の中には随分進む事のみを知つて忍耐の乏しい人がある又忍ぶ事の

みを知つて精進力の乏しい人もある此の様な人は  
始んど北海道の熊の様である、それ熊は魚を取る  
と云ふ點に於ては實に巧みではあるが其の尾を結  
ぶ事を知らぬ故に皆んか尾からぬけてしまふので  
ある、故に此の兩者相伴はねはならぬ論語の中に  
『譬如爲山未成一簣止吾止也譬如平地雖覆一簣進  
吾往也』古來有名な發明家、政事家、事業家、教  
育家、宗教家等多いが皆此の忍耐と精進に依て世  
の中に進み活動したのである六百有餘年の宗祖の  
御一代を能くく觀察するに是れを示されてある  
あの鳥も通はぬ北海佐渡ヶ島一間四面の辻堂に雪  
は積りて屋根よりも高い、壁は落ちて身をつく様  
を寒風をしのぐ事も出来ぬ中に泰然として御經  
の御讀誦『今日蓮末法に生れて妙法蓮華經の五字  
を弘めてかゝる責めにあへり佛滅後二千餘年日蓮  
の外法華經の故にかくまで身を苦しめたる者あり  
とも覺えず日本國の萬民惡まは悪くめ釋迦多寶十  
方の諸佛に譽められまいらせば其面目悦ひ身に  
餘れり日本國一切衆生の苦を受けるは是れ日蓮一

人の苦なり』と日本國一切衆生の爲に御忍び遊ば  
さり又『師子王の如くなる心をもてる者必ず佛に  
なるべし例せば日蓮が如し日蓮は日本國の棟梁也  
予を失ふ者は日本國の柱を倒すなり、我日本の柱  
とならん我日本の眼目とあらん我日本の大船とあ  
らん』と大勇猛な堅き決心を有し。わたう二陳三  
陳つゞき迦葉阿難にもすぐれた天台傳教にもこへよ  
かし僅か小島の主等がをどさんをれじて閻魔のせ  
めを何かにせんと、活々とした御教示を下さりた  
のである日本國民否吾等門下たらん者第二の日蓮  
として二陳三陳と宗祖のあとを續いて進まねばな  
らぬ。(をばり)

## 迷信を打破せよ

山間道 人

由來、洋の東西、國の如何を問はず、原始時代  
にありては迷信的信仰の存せしは、史實に徴して  
明あり。これ太古の人智未開の時代にありては、